

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第13回 放射性廃棄物管理分科会 (F2SC) 議事録

1. 日時 2003年1月29日 (水) 13:30~14:10

2. 場所 (社) 日本原子力学会 会議室

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 森山 (主査), 油井 (副主査), 藤原 (幹事), 雨夜, 出光, 上田, 佐々木, 武部, 塚本, 豊原, 中山, 西, 向井, 山本 (14名)

(代理出席委員) 石井 (苅込委員代理) (1名)

(欠席委員) 大江 (1名)

(傍聴者) 箱崎, 宮本 (2名)

(事務局) 太田, 市園

4. 配付資料

F2SC13-1 第12回 放射性廃棄物管理分科会議事録 (案)

F2SC13-2 標準委員会の活動概況

F2SC13-3 収着分配係数の測定方法—浅地中処分のバリア材を対象としたバッチ法の基本手順— (参考資料)

収着分配係数の測定方法—浅地中処分のバリア材を対象としたバッチ法の基本手順: 2002制定時の懸案事項

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より, 出席者の確認の結果, 16名の委員中14名の委員と1名の代理委員の出席があり, 決議に必要な委員数(11名以上)を満足している旨の報告があった。

(2) 前回議事録の確認

事務局より, F2SC13-1により前回議事録の確認があり承認された。

(3) 標準委員会等の活動状況報告

事務局よりF2SC13-2により標準委員会等の活動状況の報告があった。

(4) 参考資料(浅地中処分のバリア材を対象としたバッチ法の基本手順)の最終確認

武部委員よりF2SC13-3により標準制定等に伴う参考資料修正点の説明があった。以下の質疑が行われ, 武部委員にて修正を行うこととなった。なお, 参考資料は分科会資料にとどめ, 深地層分配係数の内容が織り込まれた後, 標準委員会トピカルレポート等として出版を目指すことを原燃サイクル専門部会及び新分科会へ引き継ぐこととなった。

- ・ 文字化け部分の修正を行う。また, 参考文献記載の論文が受理されているか確認を行い, 追記を行う。
- ・ P26の含水率の計算式について, 以前削除する意見があったが未確定のままとなっている。
- ・ 一般的な計算式でないのであれば, 例示とすべきではないか。
- ・ 計算式の記載方法を例えばこの計算式を使う人もいと解釈できる表現とする。
- ・ P59 4.5 b)下2行目の表現を認識する必要があるなど修正を行う。

(5) 懸案事項について

事務局より, F2SC13-4により制定後に寄せられたコメントの紹介があり, 次回改訂に向けた懸案事項として原子燃料サイクル専門部会へ報告することとなった。

(6) 今後の予定

事務局より本分科会は, 次回専門部会にて廃止等扱いが審議される見込みである旨説明があった。

以上